

秋田県衛生科学研究所報

第 33 輯

昭和 63 年度

ANNUAL REPORT

OF

THE AKITA PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH

No. 33

1989

秋田県衛生科学研究所

はじめに

近年、公衆衛生問題を取り巻く情勢は、社会の高齢化、国際化、情報化、及び技術革新の流れの中で、急激に変化しつつあります。これに伴って、衛生研究所の業務内容も益々広い範囲と高い技術水準が求められるようになりました。そして、新しい緊急行政需要に即答を求められる機会も多くなっています。一方、衛生研究所の役割には、それぞれの地域の要請に応えるのみでなく、国の衛生行政のために資料を提供する地方技術拠点としての色彩が次第に濃厚になってきております。

以上のような要請に遺憾なく対応してゆくには、衛生研究所は調査研究、試験検査、研究指導及び公衆衛生情報の解析提供業務をバランスよく備えたレファレンス・センターとして整備され、地域保健サービスの中に正当に位置付けられる必要があります。

このような状況のもとに、地方衛生研究所全国協議会は、「地方衛生研究所の強化に関する要望書」を、昭和63年8月19日に、厚生省と各都道府県へ提出いたしました。

私達は、要望書の趣旨が実行にうつされ、衛生研究所が、真に、公衆衛生行政のための科学的、技術的中核として充実した機能をもつ日のくることを祈っています。

我々衛生科学研究所の職員は、かかる現状を認識し、県民の保健衛生の向上に資するため、一層の努力をいたす所存です。

昭和63年度の事業の概況と調査研究の結果を、所報第33号として刊行することができました。どうぞ、御高見をお聞かせいただければ幸いと存じます。この所報は保健衛生及び環境衛生行政の分野において、当所職員が実施した試験検査、調査研究、技術指導の成果であります。これらの研究成果や日常検査業務は、県民の保健衛生の向上につながる課題であります。今後とも、県民の多様な要請に応える衛生関係の試験研究機関として、職員一同努力いたします。どうぞ、関係各位の御指導と御支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。

平成元年11月

秋田県衛生科学研究所長

児 島 三 郎